北海道新聞

平岸の歴史を訪ねて

～縄文・古代史編～

第11回、縄文時代の平岸～①

平岸近郊の縄文遺跡として、天神山遺跡（T71遺跡）、東山遺跡（T76遺跡）、平岸坊主山遺跡（T310遺跡）の3つの遺跡が知られています。順に概要を説明します。

～天神山遺跡（T71遺跡）～

平岸1条19丁目天神山の西側斜面に位置します（図1・写真1）。遺跡のすぐ西側には精進川が流れており、150メートルほど下流は精進の滝になっています。札幌市内の遺跡の中でも古くからその存在が知られており、昭和10年に学会誌「北海道倶楽部」にて遺物が報告されています。昭和40年代に百景園が建設された際、北海道大学の菊池俊彦氏による調査が行われ、その際見つかった土器は「平岸天神山式土器」と命名され、縄文時代中期の土器研究の大切な資料となっています。最近では平成5年に天神山児童会館の建設に伴って、発掘調査が行われ、竪穴住居跡11軒、土壙172基、縄文時代早期・中期・後期・晩期・擦文時代の土器、石器が見つかっています。

～東山遺跡（T76遺跡）～

平岸4条11丁目11番地奥内さん宅に位置します（図1）。先代当主の故・奥内雄幸さんが敷地内の庭や畑から個人で遺物を収集されました。平岸郷土資料館（平岸3条9丁目）に遺物が展示されています。昭和47年自宅を建て替えた際、竪穴住居跡が2軒見つかりました。縄文時代早期・前期・中期・後期・晩期・続縄文時代・擦文時代の土器、石器が見つかっています。

～平岸坊主山遺跡（T310遺跡）～

平岸5条10丁目から5条11丁目のぼうず山公園の北東側斜面に位置します（図1、写真2）。この遺跡も昭和初期から知られていましたが、久しく発掘調査を実施されないままになっていました。昭和39年にこの遺跡の一角が宅地造成により破壊される事態となり、これを察知した奥内雄幸さんが札幌市教育委員会に通報され、発掘が実施されました。これは札幌で初めての記録保存を目的とした本格的な発掘で、北海道大学の大場利夫博士が担当され、札幌南高校の郷土研究部員も参加し行われました（写真3）。その後、昭和48年に区画整理

写真1．天神山遺跡発掘風景

図1．平岸の縄文遺跡の位置

事業により遺跡上に市道が敷設されることとなり、札幌市教育委員会により調査が行われました。縄文時代中期の竪穴住居跡２軒、土壙４基、縄文時代早期・前期・中期・後期・晩期・続縄文時代・擦文時代の土器、石器が見つかっています。このように、縄文時代早期から擦文時代までの時代の遺物が連続的に出土する例は札幌市内に他になく、なかでも発見例が少ない縄文時代前期の土器が出現していることが注目されています。次号では各遺跡から出土した遺物から何がわかるか？縄文人はどんな暮らしをしていたのか？その謎に迫りたいと思います。

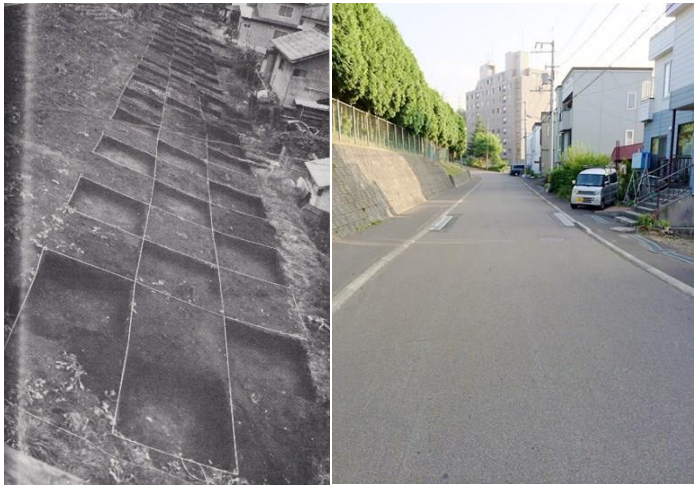

写真2．発掘当時（左）と現在（右）の平岸坊主山遺跡

写真3．平岸坊主山遺跡発掘風景

謝辞：本稿の執筆にあたり札幌市埋蔵文化財センター藤井誠二氏には多くの有益な助言をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

参考資料　平岸百拾年、平岸百拾年編集委員会（１９８１）
札幌市文化財調査報告書Ⅷ、「Ｔ３１０遺跡」、札幌市教育委員会（１９７４）
札幌市文化財調査報告書四七、「Ｔ７１遺跡」、札幌市教育委員会（１９９５）
さっぽろ文庫９０、「古代に遊ぶ」、さっぽろ文庫編集室（１９９９）

バックナンバーお届けいたします：ご希望の方は販売所までお気軽にご連絡ください。ご自宅までお届けいたします。

［編集後記］　～奥内雄幸さんのこと～

本稿で述べたように平岸の縄文遺跡の保存は奥内雄幸さんに負うところが大きい。今でこそ、昔の遺跡を保存しようという運動は珍しくないが、昭和中期そういう概念はまだ一般的ではなかった。実際、この地域では当時畑の中から土器が見つかるのは珍しいことではなく、農作業の邪魔者として「かけ」と呼ばれ嫌われているほどだった。そんな中奥内さんは、一人黙々と土器を拾い集め、遺跡の保存に奔走された。遺跡は一度壊されれば二度と復元できない。だが、その記録を見ることで後世の人間は（今の私がそうであるように）昔のことを考えることができる。私も奥内さんのように平岸に何ごとかを残せればと思う。

執筆者：道新永田販売所営業主任　伴野卓磨
１９７７年室蘭市生まれ。金沢大学理学部地球学科博士課程（古生物学専攻）を修了後、六花亭に入社。２０１１年より現職。

◇発行元◇
㈲北海道新聞永田販売所
〒０６２-０９３６
札幌市豊平区平岸６条１３丁目７-１８
Tel：０１２０-１２８-３４８
Fax：０１２０-１２８-３５８

◆この連載は毎月１日・１５日の北海道新聞朝刊に折り込みしております